

各種サウンディング技術の液状化調査手法としての適用性に関する研究委員会

平成26年度 第1回 議事録

日 時	平成26年 8月4日 (月) 14:00~15:40			場 所	地盤工学会 3階会議室			
委員長	規矩 大義	○	幹事長	利藤 房男	○	WG1リーダー	規矩 大義	—
WG1幹事	吉澤 大造	○	WG1委員	石川 敬祐	○	WG1委員	伊集院 博	○
WG1委員	小濱 英司	○	WG1委員	澤田 亮	×	WG1委員	中澤 博志	×
WG1委員	平出 務	×	WG1委員	山口 恵美		WG2リーダー	末政 直晃	○
WG2幹事	田中 剛	○	WG2委員	尾上 篤生	○	WG2委員	金 哲鎬	○
WG2委員	久世 直哉	×	WG2委員	菅野 安男	○	WG2委員	西岡 佑介	×
WG2委員	水谷 羊介	×	WG3リーダー	菊池 喜昭	○	WG3幹事	平林 弘	×
WG3委員	國生 剛治	○	WG3委員	後藤 政昭	○	WG3委員	須々田 幸治	○
WG3委員	高田 徹	○	WG3委員	谷本 俊輔	×	WG3委員	西村 真二	○
WG3委員	宮坂 享明	×	WG3委員	室山 拓生	×	WG3委員	利藤 房男	—
WG3委員	岡 信太郎	○	WG3委員	神宮司元治	×			

○：出席 ◎：代理出席 ×：欠席 △：未定

1. 平成25年度 第3回委員会議事録【資料1】

- ・特に意見なし。

2. ワーキング1報告

- ・今回は資料なし。

4. ワーキング2報告【資料2-1】

- ・特に意見なし。

5. ワーキング3報告

(1) 平成26年度 第1回ワーキング議事録【資料2-2】

- ・特に意見なし。

(2) 香取現場試験結果(CPT:3社の結果比較検討)【資料2-3】

- ・千代田工営実施の深度0~3mが当初鋭敏粘土に区分されていたが、事前貫入の影響である。一昨年の守山では鋭敏粘土が存在しており、CPTでも判定可能であった。
- ・3社のCPTの結果は、ほぼ一致している。これから、まとめ方の検討に入る。
- ・CPTでは、どの程度の薄層まで検出できるか。→コーン径に依存しており、4~5cm程度でないか。室内試験でも、この程度であった。海外では、ミニコーンを使用して、精度を上げることも行われている。サンプリング間隔の観点では、貫入スピードと関係する。
- ・ソイルアンドロックの論文で、 R_L は20~50とばらついているが、これをどのように見るか

検討が必要である。また、 R_L 値の 3 社の違いを確認したい。

- ・香取河川敷の地震後の沈下量を、河川定期横断測量から把握できないか。→土研谷本委員から確認してもらう。また、河川敷地の平面的な地盤のばらつきも確認しておく必要がある。

6. 第 49 回 地盤工学研究発表会に関して【資料 3-1、3-2】

- ・特に意見無し。

7. 委員会報告の事例（関東支部）、委員会報告書取りまとめ（案）【資料 4、5】

- ・本委員会のシンポジウムは、委員会報告と一般発表を含め、1 日間で実施する。委員会報告は、個々のワーキングでまとめたものを、委員会にてきちんと取りまとめる。
- ・シンポジウムの開催時期は、来年度の連休明け頃を予定する。本年度 3 月末には原稿をそろえる必要があるため、10~11 月には会告を出す必要がある。
- ・委員会報告書は、シンポジウムの前に取りまとめる（本年度末まで）。
- ・本成果を全国に展開する必要があるため、マニュアル的なものを作成したほうが良い。また、今回で終了するのも惜しいので、フォローアップ委員会（関東支部）を活用することも考えられる。
- ・香取現場実験は 1 箇所ですべての実験がなされている。委員会でもんで、報文の羅列ではなく、きちんとまとめた形にしたい。海外公開も意識すべき。S&F への投稿も検討すべきである。
- ・委員会では、3WG の横並びの取りまとめも必要である（例えば、 R_L を積分した図なら、どの深度でもまとめができる）。共通の土俵でのまとめ方を幹事会で検討し、各 WG に提示する。幹事会は、8 月下旬に実施（WG 委員長&幹事で構成）。